

石高新聞

R 4 年
11月14日 行
発 第5 2 号

S0で敗れ 北信越 2位で全国へ

～第47回北信越高等学校選抜ホッケー大会～



→先制点が決まり喜ぶ石動女子の選手ら



→賞状を受け取る高橋主将

→ドリブルで相手陣内に攻め込む高橋主将(青)



11月6日(日)、新潟市城山運動公園ホッケー場で第47回北信越高等学校選抜ホッケー大会の決勝戦が行われ石動女子ホッケー部は丹生高校(福井)と対戦。石動は開始早々に先制するも同点とされ、S0戦へ。2対4で敗れて準優勝となったが、12月に行われる全国選抜大会の出場権を得た。

次は全国の決勝で

主将の高橋さん(35H)は試合を振り返って、「前半で1点を取り、いい流れを作ることができたが、2点目を取ることはできなかった。うまくパスを繋げられなかった部分を改善していきたい」と語った。北信越2位として出場する全国大会への意気込みを、「今年度は丹生と三回試合をして、二回負けている。次は全国での決勝で絶対に勝ちたい」と真剣な表情で語った。全国大会に意気込む生徒らの活躍に期待がかかる。

気持ちで負けない

攻撃で存在感を発揮した丸山さん(34H)は「丹生に勝つため、シュート練習を頑張った」とこれまでの練習を振り返った。「今回の試合では、後ろからのロングパスが少なかった。点につなげられるような練習をした。ボールを最後まで追い、気持ちで負けないようにしたい」と全国大会への思いを語った。

一歩判断早く

保護者代表の高橋さんは「丹生の動きがとてもよかった。よく動き、よく先を読んでいたの、石動がボールを持ってもカットされてしまっていた。全体的に負けていたと思う」と振り返ると、「全国大会では、よくボールの動きを読んで、相手より一歩早く判断し、全員で動いてほしい」と思いを述べた。